

令和6年度石川県産業教育審議会 議事録

- 1 日時 令和6年11月29日(金) 14:00～15:40
- 2 会場 石川県立金沢商業高等学校 視聴覚室
- 3 参加者 委員 8名 (欠席7名)
小島 久枝、杉野 哲也、高松喜与志、徳永 光晴、萩原扶未子
水越 裕治、南 誠治、宮川 昌江

4 日程

- (1) 開会
(2) あいさつ
(3) 出席者紹介
(4) 事業紹介

「本県の産業教育等の取組」

(5) 説明

「震災後における能登高校の地域産業科の現状」

「金沢商業高校の兼六園ガイドの取組」

・生徒発表

○「株式会社王座金商」の活動内容の紹介

○兼六園ガイドの実践発表

(6) 意見交換

[産業教育の活性化について]

- ・NISAといったところをきちんと教えていかなければいけない、また、AIについてあまり触れられていないが、もう少し力を入れていくのがよいのではないか。
- ・いしかわ高校生グローバル人材育成推進事業について、留学する生徒たちが、語学学習や視野を広げることを目的とせず、意識をもち、行動していることが素晴らしいと思う。実のある活動にして欲しい。
- ・震災について、防災やボランティアの問題、復興ビジョンの作成など、生徒たちが震災を自分事として捉えるような教育の場を検討して欲しい。
- ・製造業の現場では、デジタルの物を作り、それを海外に据え付けに行くことがあるため、英語は必要である。一方、仕事はコツコツとものを作ることが大半のため、入社すると、デジタルや海外といった華やかな面とのギャップがあるのだと思う。コツコツを続けることで技術が上がり、海外業務の機会もあるのだが、そのギャップからか我慢ができずに辞めてしまうことがあり、困っている。
- ・アントレプレナーシップについて、大事なことだと思う。発想を変えて、新しいものに挑戦して、時代がどう変わっていくのか、時代を読まないといけないと思う。学生には、新しい発想やチャレンジをさせて、将来を考えさせて欲しい。

(7) 閉会